

海人

昭和改訂版
内十一

特 259

714

68

378



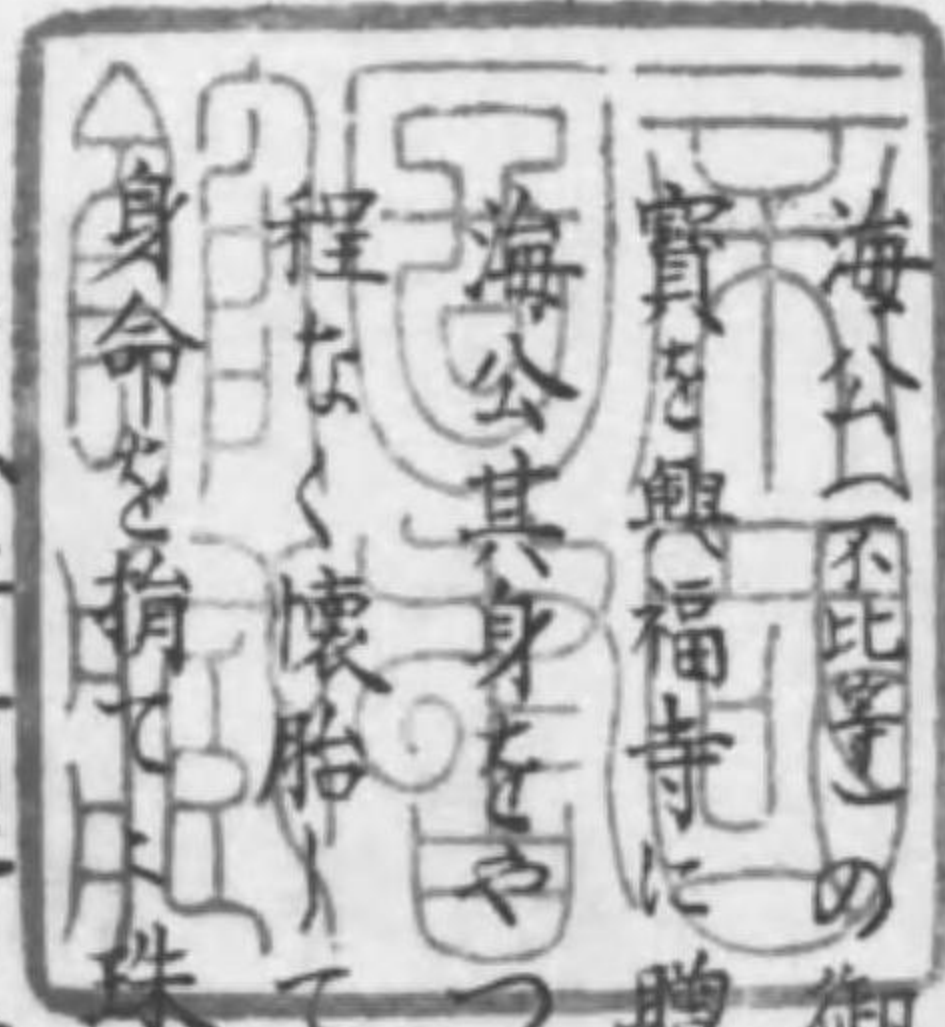
始



將259
714

海人

(梗概) 藤原不比等の子房前、其母を弔ふ爲め讃州志渡の浦に下向せしに、途すがら一人の海人に會ひぬ。海人語るやう、唐の高宗皇帝、淡



海公(不比等)の御妹を后に迎へて、華原磬、泗濱石、面向不背の珠の三賢を興福寺に贈りける時、珠はゆくりなく此浦にて海中に沈みぬ、淡海公其身をまづりて一人の海人と契り其の珠を拾はしめんとす、海人程なく懐胎して一人の男子を生めり即ち其子を世繼に立つる約を定め身命を捐て珠を龍宮より奪ひて歸りぬ、其子即ち今の房前の大官なりと、房前奇異の思ひをなして其珠をかつき上げし様を問ひ、漫々たる海中に一つの利劔を持ちて飛び入りし實狀を演せしめに、海士は我こそ御身の母の幽霊なれとて己が手跡を證に渡し、回向を頼みて消え失せぬ。房前手跡を見れば恰も十三回忌に當れるより厚く供養を營みしに、亡靈再び現れて成佛せる事を喜ぶ一曲なり。



シテ 海人
 後シテ 龍女
 子方 房前大臣
 ワキ 從者
 ワキヅレ 同三人
 所 讃岐國志渡の浦
 季 春

海士

^{わき} ^次 ^身 ^つ ^き ^上 ^三 ^人 ^出 ^侍 ^ぞ ^名 ^我 ^三 ^日 ^月 ^の ^く ^都 ^の ^{あり}
 急ぐん ^わ ^き ^上 ^天 ^地 ^乃 ^開 ^け ^一 ^道 ^と ^久 ^堅 ^此
 天の児を根の津讓里 ^子 ^方 ^房 ^崎 ^の ^大 ^臣
 とは家事ふりおとつらうがは海は横州
 志波の寺 ^房 ^崎 ^と ^申 ^浦 ^よ ^て ^わ ^り ^く

あゝ世路ひぬるまゝぬつてゆくは多急彼浦よ
下り追善をいもあかこおとあひひく下舟あらし
をぬ旅よあかこぬあか入る都乃山ゆく先
まきれお家そねぬーまきまき二笠山今そ榮
えんは岸のさくー南乃海よるゑんと行歩
ハ程あゝ津の國やまや日乃本れ始め

ある淡路の渡り来迎く鳴門乃津よき
ま侍ハ泊り二之ぬ海士少下船下歩
夏夜旅あれど楽乳女乃為とあかこ急がれて刻迄
目敷つりりの音のさまよ侍あとまゝ行く
程ふ名にのこさくー漢波の國房波の浦下
お急よわらしーあま漢急は程よ漢波の

國房崎の浦よはるるよまては又あまきをこれば
 男女の^上差別は志くば人一人来りは彼を
 待何事ともなるよまては尤^しまては
 先^{あまき}うらうらと^下はなれり
 一^上て^上延^{コイ}恵乃うは
 是^上は^上讃^上別^上志^上渡^上の^上浦^上寺^上迎^上け
 袂^上う^上る^上は

まきたんちなま^上あまの^上里^上は^上海^上人^上よ^上ま^上て^上は
 実^上や^上名^上も^上あ^上は^上伊^上勢^上お^上の^上海^上士^上ハ^上夕^上波^上乃^上内^上
 卯^上の^上山^上は^上月^上を^上ま^上ま^上り^上濱^上萩^上の^上風^上よ^上秋^上を^上
 一^上る^上又^上浪^上ナ^上の^上浦^上人^上も^上塩^上木^上は^上も^上お^上木^上は^上
 梅^上を^上お^上交^上て^上ま^上を^上さ^上れ^上ぬ^上後^上も^上阿^上る^上ふ^上け
 浦^上に^上て^上は^上魚^上も^上も^上名^上乃^上あ^上ま^上は^上東^上よ^上一^上て

花のちこももな〜何をもてるあはれふよ
 からいもあはれもあはれ〜の〜海海うなて
 流もた乃やあはれ〜海集たれんあ〜
 ぬもつひう〜あまれ運に海〜ん〜

あま
あまのあはれは浦乃海人よ〜あはれう

〜て
ちんが浦の海はあはれう
あま
あまのあはれ

の水底乃又ふめ刈り〜は〜せゆる
 あ〜はま〜や旅つりま〜のあませ
 ひたはの〜我まむ里とせせ〜う程終〜
 ね田金此果にふ〜きあやあまれ上人を見
 ふめるあはれ〜あ〜いるんはめ乃い

あま
あまのあはれよ〜あ〜あの水底の月を

清^ス賢^スせらるるに^レ見^ルる^ルあ^ハ茂^リて^レ降^ルと^レを^レれ
を^レか^ハの^ハら^ハの^ハの^ハ清^シ潔^ク也^ナめ^ハし^キん^ノ為^ニ
よ^クい^ハた^ハの^ハお^ハい^ハそ^ハと^ハよ^ク ^一て^レ ぬ^ハ月^ノの^ハ為^ニめ^カり
の^ハき^ハい^ハか^ハの^ハ清^シ潔^クあ^リつ^ハは^ハそ^ハや^ハ飯^ノ合^ノ子^チ
尋^ル乃^ハ庶^ニ此^ノ又^ハも^ハあ^リた^ハを^レ仰^ルあ^ハら^ハば^ハさ^ハし^キ我^レ
み^ハへ^ハと^ハま^ハき^ハ首^ノ天^ノ智^ノ天^ノ皇^ノ此^ノ清^シ時^ノ庶^ニ上^ノより

ひと^ノの^ハ名^ノ珠^ヲを^レ渡^サれ^ハを^レ此^ノ津^ヲよ^テ就^ス
神^ノよ^クき^ハう^クき^ハあ^ケし^ハも^ハけ^ハ浦^ノ乃^ハ
上^ノあ^ハま^ハら^ハつ^ハ羽^ヲを^レ満^テ潔^クし^キく^ハ見^ルる^ルあ^ハを^レい^ハま^ハ
や^ハら^ハら^ハふ^ハよ^ク ^一て^レ 誓^ハ何^ト名^ノ珠^ヲを^レう^クき^ハあ^ケ
し^ハも^ハけ^ハ浦^ノ乃^ハ海^ノ人^ヲよ^テ者^ト中^ノり ^一て^レ さ^ハむ
惟^レけ^ハ浦^ノの^ハ海^ノ人^ヲよ^テ ^一て^レ 誓^ハ何^ト名^ノ珠^ヲを^レう^クき^ハあ^ケ
し^ハも^ハけ^ハ浦^ノ乃^ハ海^ノ人^ヲよ^テ ^一て^レ さ^ハむ

詔ハいづくの程ぞ 下 あまきな侍里を 下 あま
 此、里と中も 上 け浦人の名所あり又是
 朱鷲を新珠鷲と中も 上 彼玉をうつき
 あまゆちて見そあけるよ依^く新珠鷲と
 中 わ あま珠此名を 何と 中けるぞ
 玉申 よ 新 か の像 ま 浦 ま 何 か あり

拜めども同 一 面あるよ依^て 面向 不 背
 乃玉と中 わ 上 けの ま 像 を 何 と して 漢
 船 より も 渡 ける 我 今 の 大 臣 漢
 海 公 乃 弟 妹 ハ 唐 古 言 宗 白 皇 帝 此 后
 小 立 せ ゆ 小 立 せ ゆ 氏 寺 ち れ ば と て 無 福 也
 入 三 の 宝 を 踏 け は 花 原 名 江 濱 石

あ

五

上
面^上向^上不^上肖^上の珠^上、この^上髪^上ハ^上京^上子^上名^上、名
珠^上ハ^上け^上仲^上ま^上く^上龍^上神^上ま^上と^上う^上侍^上大臣^上侍^上
身^上を^上や^上り^上ー^上彼^上玉^上を^上侍^上らせ^上ん^上が^上為^上ふ^上
延^上密^上乙^上女^上と^上契^上を^上ま^上あ^上一^上人^上の^上血^上子^上を^上ま^上あ^上け
給^上ふ^上今^上此^上房^上崎^上乃^上大臣^上と^上や^上 子方屋^上あ^上
我^上丁^上替^上分^上崎^上此^上大臣^上よ^上あ^上か^上り^上ー^上乃^上

海^上士^上人^上や^上能^上く^上侍^上り^上ゆ^上ー^上今^上と^上い^上は^上侍^上は
事^上と^上丁^上替^上と^上い^上ひ^上ー^上に^上い^上ま^上い^上は^上身^上乃^上上^上侍^上
中^上て^上い^上ひ^上ける^上そ^上や^上 木下あ^上ら^上ま^上あ^上る^上や^上侍^上
子方上^上ま^上つ^上り^上大^上臣^上の^上侍^上子^上と^上生^上れ^上直^上ひ^上く^上
侍^上者^上乃^上門^上侍^上ま^上い^上と^上も^上い^上ま^上う^上侍^上事^上ハ^上け^上
身^上侍^上ま^上い^上母^上志^上く^上は^上 木下或^上時^上功^上臣^上侍^上り^上

く曰^ク辱^ハけ^ルる^{コト}と^ハ流^ル女^ハ流^ルあ^ハ志^ハ流^ルの
 寺^ハ房^ハ婿^ハ乃^ハ解^リ中^ニせ^バお^ソれ^ナり^連
 祠^ヲを^流に^あい^結した^延を^乃子^流の^女此
 腹^ヲお^なと^りを^流り^上よ^ーそ^まじ^とて^も
 帯^ヲお^もよ^歩く^志を^ーや^どは^らと^月乃
 光^ヲ回^る流^の思^ハあ^ハま^やと^らし^ハ尋^ル

来^リし^る里^ハあ^ハま^にく^一此^ハ流^ル士^人や^と
 流^ルを^流し^結る^上実^ハん^た延^流衣^ハ
 日^ハく^とぬ^くに^家神^ヲを^まま^じと^志を^ま
 と^やか^しけ^な乃^ハ此^ハ事^ハや^曲く^る貴^人
 乃^ハ結^しま^海士^ハ此^ハ胎^内子^ハや^どり^みお^も
 つ^世た^らた^とハ^日月^乃流^ル流^ルよう^つ

あ
ヤ
チ
ヤ
ニ
ハ
ダ
ズ
コ

我もも
延喜世子孫とまじりておののち
我君乃ゆりには似しおはまれば
門のほをちこしきとや水鳥乃お
うの名をいふまゝに
けなほし海も入るおのなるおをほ

かみはなちて
おのほよほおまゝに
かゝるまはら
今乃海をせ残れば
またはら
うをふあ

我子此為子捨ん命ノ上 亦何程もおノ加カる

トとチイロ子尋の飛を獲ツつマとト彼

珠を取ツ得ルトバは繩を動スじテ一ノ時

人ノかヲをそノ引キあリあリ給ヘと約束シ一ノ上ノひ

とノの利剣をぬきキあリつク 彼ノ海底ニ

お飛入リバカらシひヨつクはシ波ノ烟乃波

を清キまつテ海ノ深ニことヲ入ル直下空ニ

見レたニ底トもナくトりも志スぬ海底

子ノ昔も神ノ受ハしタきニ取得ん事ハ

不定を里かクて龍宮ニおリて宮中

をみまシるニさシ二十丈乃玉塔ノ彼ノ

珠ヲをしめテ香花を供へル也神にヤラ

八龍遊居より其年忌魚鱈の口道
 き籍しや家命さしけり思出せむ古々の
 方そ恋しきあの浪のあまふ持家
 子のみ覚え父大長もおんまゝん志よても
 けまふるもあふこせしやまの海へ
 てさしめさむさつしむを合せむ

や志波寺乃親音薩埵の力を合せて
 たむ結とて大世の利益を頼みあり
 龍宮に中み飛入まばたたをうつとそ
 いよりな海を際よ宝珠をる取て遊
 んとまればち後神おんくち遊てまゝ
 みし事るれば持するをぬちし乳

此下をかきたり玉を押しあぬを捨
てぞ仰たりとほ龍宮のあらひよ死人
をいぬばあつりよ道つゝ惡龍かゝ約束
此彈をうごりせぶ人ご怒び引揚たりき
まむこまむの海よほうみ出たり
かゝてうらうら出された惡龍のわはま
か

てみ舞もほいのほ舞まありたり玉も流
ふありいももかゝくぬけるよと大臣お
げも舞くいも舞の下の吾乳の當り
ちるくもくまのいもあやいもまぶさるも割
のあつりもたほはむのあつり中より光明
舞突とあるむを取出一つり相を約
クワクヤク

来此とく清才も世縁乃位を更此浦の
名よもせく房崎の大長と申せ今も
何をう包むべきそ我流身の女雀人の
遙果よ日下分け草の詠をほ鏡じて不審
をさで弟へや今ハ胸らんあは波のよ流
し我樂もさ夕人乃あけてくや一き浦崎

が親子の弊流志不の波此底よ沈け
里直波此下よ入にかりあま流追言ま
か付てゆ又迷し一墨れこる上ゆ事詠を流
披見者あまほまそゆ子方上あはてめ此子詠
うとひらたて見事ハ魂によま去て二十三
年詠を白砂子埋せ日月の算を下獲

冥路氏の事として家を吊ふ人を一

君孝行して我水園を助ふ愛まふ

里六十二年^{中三人}おぬ終ふあましじ吊はん

は寺の志ある子向草花乃蓮此妙

鐘色この苦をぬるぬふく 出羽コス

早^早舞^舞寧^寧無人^{無人}都^都耳^耳 忌み^忌籓^籓の^の使^使經^經也^也音

は清經よりひらきして五逆の事多か天王祀
荊を家り八歳の龍女の南方^{チヤク}無垢世^{ニク}
累^中も^中生^中を^中更^中ね^中ら^中轉^中讀^中し^中給^中ふ^中べ^中し

日上 深^シ遠^ダ飛^フ福^{フク}お^オ遍^{ヘン}照^{ショ}於^ニ十^{ジウ}方^{ホウ} 微妙^{ミウミョウ}淨^{ジヨウ}法^{ポフ}
牙^サ具^ク相^{ソウ}三^{サン}十^{ジウ}二^ニ ^{カク}以上 以^モ八^{ハチ}十^{ジュウ}種^{シュウ}好^{コウ} 用^{ヨウ}在^{ザイ}處^ト
法^{ホウ}身^{シン} 天^{テン}人^{ニン}所^{シヨ}戴^{タイ}仰^{ヨウ}龍^{リウ}神^{シン} 哉^{ケイ}誌^シ敬^{ケイ}也^ニ音

368
378

らる難乃淨經也今は經乃淨
用はくく天教八教人實能人皆色
見彼龍女成佛お了持漢好志波者と
号一毎年八講約等の勤行佛法
繋留此靈地となるもは孝善と
けたまはる

昭和十年九月廿五日印刷
昭和十年九月三十日發行

定價金五拾錢

著者權所有

東京市下谷區上根岸町八十二番地

著者 寶生 新

東京市京橋區銀座西六丁目三番地

發行兼印刷者 江島 伊兵衛

發行所 下掛寶生流謠本刊行會

終

